

生活にアクセントを 社会教育講座案内

初心者版画教室

- ・講師 金子敏美
- ・内容 木版画の作成(年賀状等)
- ・期間 月2回(第2・4木曜日)
午後7時～9時 5月から
- ・対象 成人一般
- ・参加費 月200円、材料費実費

初心者籐細工教室

- ・講師 皆川静子
- ・内容 籐を使った作品を作製
- ・期間 5月～10月(隔週水曜日)
5/13、27、6/10、24、7/8、22、
9/2、16、30、10/14の10回
午後1時～3時30分
- ・対象 婦人
- ・定員 20名(申込み順)



初心者ギター教室

- ・講師 大沢正雄
- ・内容 ギターの基本をマスターする
- ・期間 4月～7月(毎週土曜日)
4/25、5/2、16、23、6/6、13、27、
7/4、11の9回 午後7時～9時
※初日は説明会
- ・対象 小学生以上 成人一般
- ・参加費 2000円 教本等は実費
- ・定員 15名(申込み順)
- ・ギターの無い人はご相談ください。

■会場、問い合わせは北部地区公民館
へ ☎232-0077

婦人学級

- ・とき、ところ…毎月第1、第3土曜
日は中央公民館、第1、第2、第
3火曜日は北部地区公民館
- ・内容 煎茶(午後1時～5時)
民謡(午後1時～3時)
謡曲(午後7時～9時)
- ・申込み ☎377-4436(鶯頭)
- ※このほかにもたくさん講座など
があります。「くろさき社会教育情報」
3月15日発行に掲載されています。ま
た、教育委員会へお問い合わせください。

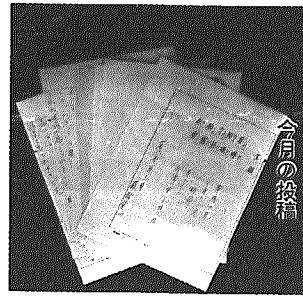
街 かど

募集しています

- ・短歌
- ・俳句
- ・随筆
- ・イラスト
- ・写真
- ・まんが
- ・その他

町への意見や要望も受け付けます

文章は苦手というかたは連絡を取材に行きます
匿名もよいです
投稿・連絡先は黒崎町大野281-1
役場企画開発課
広報「街かど」係
☎377-3101



桜に思う

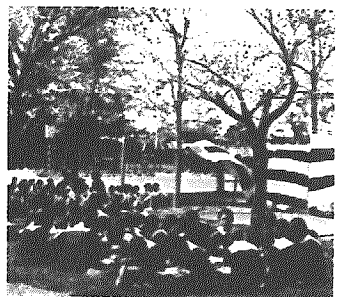
校庭の桜よ、あなたは覚えていますか。大分昔の話になるけれど、昭和十六、七年ごろ、桜花爛漫の花の下、短冊に俳句や短歌を書き桜の下に吊るし、その姿を賞でながらお弁当を広げ、青春を謳歌した少女たちのいたことを。夢多き少女たちの校庭は美しい桜の花に囲まれ、私たちにやすらぎをあたえてくれました。ハラ／＼と舞い散る花びらにも、言いしれぬ風情が感じられました。

戦争はもういやです

外はまだ寒い。ほのかな春の胎動は確実に始まっている。庭の隅には水仙が芽を出し、きのとうが花を開いていた。私たちが家の中にもぐっていたられないこのごろである。この季節にはなぜか毎年思い出すことがある。五年生のころだった。学校から帰るとランドセルを玄関におき、友達三、四人で近くの桜林のある堤防下の畑で芽の出たばかりのチューリップの苗を掘りに行ったものだった。今、思うと前の年の掘り残しだったらしい。それを、家の近くで植えて楽しんでいた。

奥野四区 遠山ミヨ

その日は、全校生徒の観覧会でした。紅白の幕が張られた校庭で先生方も生徒も一つになり楽しい語らいの中に、春の陽は時を惜しむかのよう静かに流れていきました。しかし、その平和も長くは続きませんでした。昭和十八年ごろになると、戦争はいよいよ激しくなり、少女たちは勤労奉仕にかり出されました。出征して男手の足りない農家の手伝いや新潟の護国神社へ、泊まりがけで砂運び、



大野の古いアルバムから

大野八区 大矢(六十六歳)

そんなある日、堤防の上で男の話す声がした。私はそつと頭を上げてみた。二番兄が大きな桜の木を背に別れのあいさつを一生懸命練習していた。近々出征するため神社で村の人たちの前で話すあいさつだった。私は恥づかしくなり、兄に気づかれぬよう腰をかかめるようにして、友達とその場を離れた。私は男七人、女二人の九人兄弟だった。母はいつも「十本の指と同じようにみんなかわい」と言っていた。兄三人が戦争に行った。母は毎日郵便屋さんを待っていた。今になってようやく子を持つ親の

気持がわかった。私のころはまだ運のよい方だった。三人とも元気で帰ってきた。二番兄は中支(中国中央部)に六年もいたが、よかった。私の夫は予科練に行く気だつたと言う。若くして未亡人になった人もいる。夫や兄弟や恋人を送った人もいる。テレビで中国残留孤児の方々を見ると身をさかされる思いがする。戦争の傷跡はいつまでも消えない。今の若い人たちは知っているのか、と思う。私は孫たちに語り継ぎたいと思う。あるとき二十歳くらいの若者に聞いた。「あなたたちの歳でみ

短歌

黒崎短歌会

日本のこしひかり獲るる浦原の田の面は雪を被りて想う 泉井 ヨ子
ためらもなく専業の農をつぎし子は減反の記事にかりぬ 蓋原 セツ
雪がふり未きわまりし山茶花の狭庭にざわいとしく眺む 渡辺 ウタ
雪被りて屋根も道路も白き真夜寒の冷氣に深く静もる 宮田 ミイ
山の神の山菜料理の数々に薺味噌喰みて祖母を思ひつ 大谷 モト
久々にきたる茶房に友を待つあられ降り来る午後一時なり 堀内 昌江
十年を待ちて迎えし新築の祝詞の声をいきのみて聞く 阿部 淨子
初詣で呼び子誘えば難除けのすめを買いて燈り持ち来ぬ 金内 セン
さまざまに思い眠れぬ冬の夜半犬の遠吠無気味にひびく 乙川 竹
若き日に禁酒いたせし我なれど古桶の頃より養命酒味わう 柏 直樹地
大江戸の昔を徳富馬兼蒸籠床に置き春をむかえぬ 広瀬八重子
土堤道を歩けば靴に伝い来る土の温もり今日は立春 小出美喜子
動かぬと遠見に見えし白鳥のしきりあされり望遠鏡の中に 橘 芳園

俳句

俳句会(三月份例会)

連れ合い逝きショック死せしとふ其の夫婦の上手な往生羨しと思ふ 小林
掘ぞいの 草の芽春の 生れたる 早川 うめ
啓燈や 少し温める 厨水 選
木枯や 兄看とりつつ 父忍ぶ 斎藤 美芳
しまい湯に 目を閉じて聞く 春の雨 神原 孝子
庭におり 草摘む背中 暖かし 小泉 翠
春愁や 去年の句集の なつかしく 斎藤 モト
雪降れば 良き訪れの ありそな 白川 代香
宵明り 難も仏も 灯さるる 浅間 しげ
梅小枝 ふくらみをるに 寒もどる 菊地八重子
名草の芽 どれにもきてして ある名礼 田辺 正二
靴の泥 洗い流して 下着る 那須野宗一
川なりに 曲る町なり 水温む 滝沢 誠伍

漢詩

萩野 覚心

雪解川 ときどき雪が 流れ来る 長谷川一定
お通路の 鳴門の橋の 満拝み 倉橋 義雄
寒八ツ目 煙にむせる 老いし妻 高橋 睦治
銀おろす 土のにおいや 春がすみ 池兼清市郎
雪の原 紺ひとすじの 信濃川 今井 千代

(読み)

母の背の 合羽に下る 氷かな 佐藤 キン
六十数年前遠く過ぎ去りし思いで。私の母は川向かいへ舟に乗って商いに行きました。私は幼いころよく渡し場へ迎えに行きました。ある吹雪の日、渡し場で待っている私を、こんな寒い日に迎えにきたのかと叱りながら、そつと合羽に包んでくれ、私は母の腰にぶら下がるようにして家に帰りました。合羽には氷が下がついていました。母さん寒かったらう、と思いつながら、氷をかぞいもぎ取った思いで、母の腰のぬくもりを思い出し、懐しく詠みました。

火災発生状況

	出火件数	全 焼	半 焼	部分 焼	建物以外
57年	16	0	3	5	8
58年	5	1	1	1	2
59年	4	0	1	2	1
60年	10	8	1	4	3
61年	8	5	0	3	2

防火の大役 あなたが主役

昭和62年新潟県春季火災予防運動
4月1日～7日

外来語豆辞典⑥ 中学通り自治会編

ジュピター…ローマ神話の神、木星 ショート…短い ジョーク…しゃれ ショット…発射 シリコン…ケイソ シルバーク…絹 シルバー銀…シルバースーツ…老人優先の席 シ

ングル…1つ、独身 シンク…同調 ジンジャエール…シヨウガを加えた清涼飲料水 シンパ…共鳴する人々 シンブル…質素 シンボジウム…意見交換会 シンボル…象徴 【ス】スイート…甘味 スーパー…大きい、秀れた スカイ…空 スキャンダル…醜聞、

スキン…皮膚 スクープ…特種 スクール…学校 スクラム…横隊 スケジュール…予定 スコア…得点の記録 スタッフ…幹部、役者以外の裏方 スタンス…立ち幅 スタンダード…標準 スチーム…蒸気 ステーション…駅 ステータス…身分 ストイック

…禁欲 ストーリー…物語 ストック…在庫 ストリート…街路 ストレート…まっすぐ ストロベリー…いちご スニーカー…運動靴 スノビズム…俗物根性 スピーチ…談話 スピーディー…速い スプリング…ばね、春 スペシャル…特別